

SAKAI 乳幼児

『わくわく自然あそび集』

～子どもも大人も Let's チャレンジ!～



堺市

「自然環境を取り入れた教育・保育の実践から、 子どもたちの豊かな感性を育むことを目指して」

本市における教育・保育施設において、自然環境を取り入れた教育・保育実践をすることで、子どもたちの豊かな感性を育み、学びに結びつくよう推進し、質の向上を図ることを目的に、株式会社生態計画研究所に委託し、2019年度『幼児期における自然環境を通じたあそびと学びに関する調査研究事業』を実施しました。その中で市内の公園、緑地、海岸等及び子どもたちが自然体験できる施設等の調査を行い、本業務での取り組みを総合的に集約した資料集の作成を行いました。子どもたちが興味を持って取り組める自然あそびと、それを展開できる市内の公園・施設等を合わせた紹介等も記載されていることから、教育・保育施設だけでなく、子どもに関わる全ての方に活用していただける資料となっています。

目次

1.公園緑地における自然あそび資源及びあそびの紹介	---	1
1) 調査方法		
2) 市内の公園における自然あそび資源と自然あそびの例		
3) 自然あそび資源とあそび方	---	5
■コラム 注意が必要な生きもの	---	14
4) 自然あそびの事例	---	15
■コラム 自然あそびからはじまること	---	29
5) 自然あそびのための空間づくり（園庭の活用等）	---	30

1. 公園緑地における自然あそび資源及びあそびの紹介

子どもたちが自然体験できる施設等の調査を行い、子どもたちが興味を持って取り組める自然あそびと、それを展開できる堺市内の公園・緑地等を合わせて紹介し、保育・教育に関わる方々が、それぞれの現場において実用できるように作成しました。

1) 調査方法

(1) 対象

- ・堺市内の公園、緑地、海岸等、幼児が安全に自然体験できる施設、フィールド等全般。

(2) 調査方法

- ・堺市内の教育・保育施設、約 160 箇所へのアンケートにより、自然体験のために利用している施設（園庭、公園、緑地、海岸等）やその体験・自然あそびの内容など、自然体験活動の実状を把握しました。
- ・教育・保育施設を対象にしたアンケート結果より、利用頻度の高い公園・緑地を中心に、堺市内で幼児が自然体験活動を実施できそうな場所を調査しました。（アンケート内容、回答は報告書参照）

(3) 分析方法

- ・上記の調査結果に基づき、それらのフィールドで自然あそびの資源（動植物等）や、展開可能な「自然あそび」のメニューを分析しました。自然体験活動をする中でのあそび方や教育・保育を行う上での大切な姿勢、生きものへの配慮、安全管理上の注意点等とともに紹介しています。

2) 市内の公園における自然あそび資源と自然あそびの例

- ・市内の環境を、海岸、市街地、里地（緑の多い住宅地）、里山エリアの 4 つに区分し、大規模公園（大泉緑地、大仙公園等）、南部丘陵緑地（堺自然ふれあいの森等）、小規模公園（街区公園等）など、公園・緑地などの特性を網羅できるように、利用頻度の高い公園・緑地を中心に 14 か所を取り上げ一覧表としています。（p.2～3 記載）
- ・自然あそびは、本事業「フィールドワーク研修」（※下記）で紹介したものを中心に記載しています。
※フィールドワーク研修：季節に応じたフィールドワークによる人材育成。市内教育・保育施設の職員を対象に、季節ごとの自然環境を取り入れた教育・保育の実践方法を習得することを目的に、令和元年度 6 月、8 月、11 月、2 月に実施した。

堺市内の公園の環境要素と展開可能なあそび（例）の一覧表

環境要素(場所)		自然あそび資源	周辺環境		海岸		市街地							緑の多い住宅地					里山
			公園面積 ha	16.3	37	1.5	2.27	3.5	8.3	38.5	98.7	0.15	0.23	10.7	12.66	15.5	17.2		
草むら	野の草花	展開可能な自然あそびの例 (P■ ※1)	大浜 (堺区)	浜寺 (西区)	戎 (サピエル) (堺区)	新金岡 (北区)	震ヶ丘 (西区)	土居川 (堺区)	大仙 (堺区)	大泉 (北区)	西野 (東区)	のうさぎ (南区)	登美丘 北 (東区)	西原 (南区)	大蓮 (南区)	堺自然ふれあいの森 (南区)			
			○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○			
			○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○			
花壇 プランター ワイルドライフガーデン	園芸植物	色、形、におい、手ざわりを楽しむ、プラグで生きもののさがし(P27)	○	○	○	○		○	○	○									
			○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○				
			○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○				
樹木	中高木	同じ葉っぱさがし(P17)、自然の顔さがし(P18)、自然の万華鏡(P16)、松葉すも、野鳥観察、ピーティンク(P28)	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○			
	低木	かくれんぼ、トンネルごっこ、同じ葉っぱさがし(P17)、自然の顔さがし(P18)、自然の万華鏡(P16)、松葉すも、野鳥観察、ピーティンク(P28)	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○			
	香りや手ざわりが楽しめる木	くんくんボトル(P25)、香り袋づくり(P25)、においや手ざわりで仲間さがし(P26)、ピーティンク(P28)	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○			
	あそべる木の実は	自然の宝箱づくり(P19)、ドンダグロころがし、木の葉のマラスづくり、おまごと、お店屋さんごっこ、野鳥観察、ハイドロチョッキリなどの昆虫観察	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○			
	木登りできる木	木登り	○	○		○			○	○				○		○			
落ち葉や枝とふれあえる場所	あそべる倒木	平均台ごっこ、のぼりおり、秘密基地あそび、枯れ木にすむ生きもののさがし								○				○		○			
	落ち葉 小枝 エコスタック	自然の宝箱づくり(P19)、葉っぱのステンドグラス(P20)、葉っぱのアールバム(P21)、落ち葉の色ならべ、落ち葉のシャワー(P22)、小枝の葉っぱは釣り、小枝で生きもの作り、落ち葉の下で生きもののさがし(P24)	○	○	○			○		○		○			○	エコスタック※3			

周辺環境		海岸		市街地								緑の多い住宅地					里山
		16.3	37	1.5	2.27	3.5	8.3	38.5	98.7	0.15	0.23	10.7	12.66	15.5	17.2		
環境要素(場所)	自然あそび資源	展開可能な自然あそびの例															
		大浜 (堺区)	浜寺 (西区)	戎 (サピエル) (堺区)	新金岡 (北区)	露ヶ丘 (西区)	土居川 (堺区)	大仙 (堺区)	大泉 (北区)	西野 (東区)	のうさぎ (南区)	登美丘北 (東区)	西原 (南区)	大蓮 (南区)	堺自然ふれあいの森 (南区)		
生きものが生息する環境	林	○	○					○	○				○	○	○		
	草地	○	○		○				○		○		○	○	○		
	池や水路	○							○			○	○		○		
	湿地					○		○	○						○		
	石積み	○													○		
	その他 (花木・果樹など)						○					○			○		
砂あそび場		○		○		○		○	○	○			○		○		
土であそべる場所									○			○					
芝生広場		○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		
平坦な広場		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		
築山や斜面		○		○					○			○	○	○	○		
池や水路		○					○		○			○	○	○	○		
固定遊具		○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○			
あそび場周辺の水道・井戸			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
飼育動物		○							○						○		
自然情報サイン あそび案内		○	○	○		○		○	○		○		○	○	○		
イベント・プログラムの実施			○					○	○				○	○	○		

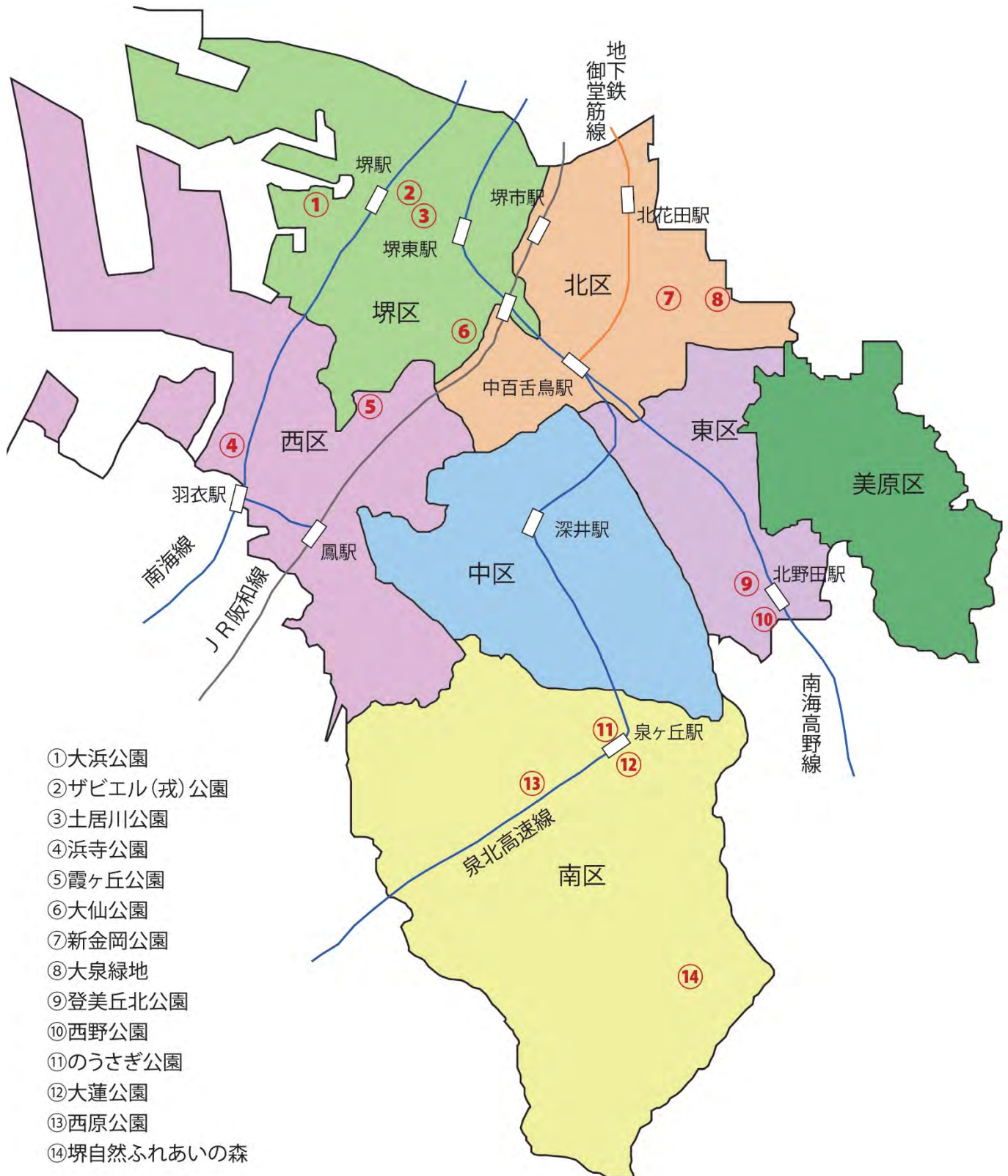
・草花等の採取や木登り等のあそびについては、各公園のルールに従ってください。

・※1 (P■)と書かれている自然あそびは、「(4)自然あそびの事例(P15～28)」にて、あそび方やポイントを紹介しています。

・※2「ワイルドライフガーデン」：野生動物との共生を目的とした庭。ここでは、この目的に沿った管理をされている公園内の花壇などのスペースを「ワイルドライフガーデン」として調査しました。

・※3「エコスタック」：落ち葉や剪定枝などをストックしてある場所。昆虫の棲み処となります。

■ 自然あそび資源を抽出した公園・緑地位置図



3) 自然あそび資源とあそび方

それぞれの公園・緑地等から抽出された草むらや樹木などの環境要素（場所）と、そこに存在する自然あそび資源を紹介し、動植物の四季を通じての変化と、その利用方法（あそび方）や生きものへの配慮、安全管理上の留意点を紹介することで、ここで取り上げた公園・緑地以外でも、教育・保育に関わる方々による、自然あそびのための公園・緑地の利用が広がることを目指しています。

草むら

野の草花



公園のすみに残された小さな草むらなどにも、あそべる草花が咲き、チョウやバッタなどの生きものが生息しています。

春



シロツメクサ（クローバー）、セイヨウタンポポ、ナズナ（ぺんぺん草）、ヨモギ、ナナホシテントウなど。

夏



オオバコ（草相撲のできる草）、ネジバナ、ドクダミ、オンブバッタ、オオカマキリなど。

秋



エノコログサ（ネコジャラシ）、ススキの穂、「ひつつきむし」と呼ばれる草の種（ケチジミザサ、ヒナタイノコズチ、コセンダングサ、アレチヌスビトハギなど）、コオロギなど鳴く虫。

冬



タンポポなどのロゼット（葉を放射状に地表に張り付けた状態）、落ち葉、霜柱、落ち葉の下で冬越しするダンゴムシなどの生きもの。

花壇・プランター・ワイルドライフガーデン

園芸植物



・花壇、プランター

色とりどりの花やハーブが咲く花壇やプランターでは、色や香り、手ざわりを使った自然あそびが展開できます。公園によっては「花摘み園」があります。摘んで花束をつくるなどのあそびをする中で、植物ごとの様々な違いに気づき、植物や育てている方への気持ちが育まれることでしょう。



・ワイルドライフガーデン

「ワイルドライフガーデン」とは野生動物との共生を目的とした庭のことを言います。本事業では、この目的に沿った管理をされている公園内の花壇などのスペースを「ワイルドライフガーデン」として調査しました。吸蜜植物には、昆虫が蜜を吸いに訪れます。幼虫の食草となる草花には、チョウなどが産卵に訪れます。生きもののつながりを感じられることでしょう。

樹 木

低 木



小さな公園にも、いくつかの種類の樹木が植えられています。

低木では、子どもたちの手の届く高さに、葉が茂っています。

見たり、さわったりしながら、葉を比べてみると、色や形、厚さ、手ざわりなどが違います。1枚1枚の違いを楽しみながら、葉っぱあそびが始まります。



穴が空いている葉にも気づくことでしょう。見立てあそびにつながったり、樹木を食べものや、すみかとして利用する生きものの存在に気づいたりします。

低木の間隙に入りこめば、トンネル遊びやかくれんぼの始まりです。枝に気をつけて遊びましょう。

中高木



中高木では、幹にふれることができます。

幹の色や模様、感触は、樹木の種類によって違います。また、若木か老木かなどによっても違うことがあります。

コアラのように木に抱きついて、自分の両腕にぴったりおさまる太さの木を探すのも楽しいですね。「こっちの木の幹はつめたい。あっちの木の幹はあたたかい」などの違いにも気づくことがあります。



幹をすみかにする生きものも見つかることでしょう。

樹 木

香りや手ざわりが楽しめる木

香り

香りの感じ方は人それぞれ。楽しみながらいろいろな香りをかいでみましょう。年齢に応じて、植物にとっての香りの効果や、香りが私たちの生活の中でどのように利用されているかも考えてみましょう。特に特徴的な木をいくつかご紹介します。



花の香り

春のアベリア、ツツジ、スイカズラ…、夏のクちなシ…、秋のキンモクセイ…。香りに誘われ、蜜を吸いにやってきたチョウなども探してみましょう。



葉の香り

葉はこすったり、ちぎったりすると香りがします。クスノキから製する「樟脳」は、防虫剤として用いられてきました。

手ざわり

自然物の多様なさわり心地はおもしろく、たくさんの表現がうまれます。その違いを活かしたあそびや工作をしてみましょう。年齢に応じて、表面の感触の違いが植物にとってどのような効果があるのかを考えてみましょう。特に特徴的な例をご紹介します。



葉の手ざわり

例えば、ツツジの葉はフサフサとした手ざわり。新芽を中心にペタペタと、服にくっつく葉もあります。



幹の手ざわり

サルスベリはその名のとおり、サルも滑りそうなほど、ツルツルの樹皮をしています。夏場を中心に他の木よりひんやりと感じられることがあります。

樹 木

あそべる木の実



どんぐり

コナラ、アラカシ、マテバシイなど。種類により殻斗(帽子)などが違います。ゾウムシの仲間などが卵を産みます。



まつぼっくり

熟すと鱗片(りんぺん：うろこ状の一片)の間から翼をつけたタネが落ち、風によって飛んでいきます。



飛ばして遊べる実やタネ

ケヤキ、イロハモミジなどの実やタネは風に運ばれます。年齢に応じて、遊びながら、より遠くへ飛ばす方法や、飛ぶ仕組みを考えてみましょう。



色あそびのできる実

ヤマモモやサクラの瑞々しい実は、お絵かきや色水あそびが楽しめます。

野鳥が食べる実



カキ、ムクノキ、エノキ、ミズキ…など。野鳥が実を食べる様子を観察してみましょう。



樹 木

木登りできる木



子どもたちにとって、木登りは魅力的なあそびです。子どもたちの様子を見てみると「自分で降りられるところまでしか登らない」など、自らを律する様子も見られます。そういった過程を経て、たどり着いた場所から見える景色は格別です。野鳥や昆虫など、木の上で暮らす生きものの目線にも近づきます。



※登りやすい枝ぶり、木の折れにくさなどを確かめながら行いましょう。
※実施の可否は各公園のルールや、各園の安全管理方針に従ってください。

あそべる倒木



倒木も、魅力的な自然の遊具になります。まだ木登りができない子も、よじ登って遊んでみたり、平均台やシーソーのように遊んだり…。ひっくりかえせば、倒木をすみかにする生きものも観察できます。



※遊ぶ際には、朽ちて折れやすくなっていないかなど、木の状態をよく確認して行いましょう。
※実施の可否は各公園のルールや、各園の安全管理方針に従ってください。

落ち葉や枝とふれあえる場所

落ち葉



色も形も多様で美しい落ち葉、拾い集めて比べてみたり、おままごとや制作に使われたり…と大活躍です。

冬の落ち葉は、カサカサとした感触を楽しめます。音を楽しみながら歩いたり、舞い上げて散らしたり…。落ち葉を集めて、落ち葉のシャワーにするなど、体を使った遊びも楽しめます。(P.22 参照)

※遊んだ後は、必要に応じて、散らした葉を集めるなどしましょう。

小枝



自然あそびの中で、必ず見られる枝遊び。拾って持ちやすさ確かめてみたり、見立てあそびを始めたり、何かを作ってみたり…。リスクを考え、対処しつつ、そこにひそむ価値を認めて、あそんでみるのもよいでしょう。

エコスタック



剪定した枝や落ち葉などをストックしておくことで、昆虫やダンゴムシ、クモなどのすみかをつくることができます。そっと枝などを動かして、生きものの様子を観察してみましょう。

※観察し終わったら、枝や落ち葉はもとに戻しましょう

生きものが生息する環境（場所）

林



鳴き声をたよりに、セミを探したり、抜け殻であそんだり…。クヌギ、コナラなど樹液が出ている木があれば、カナブンやチョウの仲間に出会うことができるかもしれません。

シジュウカラ、コゲラなどの野鳥が採食したり、樹洞で子育てをしていることもあります。鳴き声や木をつつく音を手がかりに探してみましょう。

※樹液にはハチの仲間がやってくることもあるので気をつけましょう。

草地



咲いている野の花の種類によって飛んでくる昆虫の種類がかわってきます。また、草丈の高さによっても、コオロギやバッタの仲間など、見られる生きものがちがいます。草地の中に入り、飛び跳ねる姿などを手がかりに探してみましょう。

池や水路



小さな水辺でも、アメンボやトンボなどが暮らしています。水草があれば、ヤゴの抜け殻がついているのを見つけられるかもしれません。

ある程度広い水辺では、カモやカイツブリ、カワセミなどの水鳥も見られます。池の中の草地や水辺の林では、水鳥が子育てをしていることもあります。

生きものが生息する環境（場所）

湿地



アメンボやゲンゴロウ、トンボなどの昆虫、カエルの仲間、サギなどの水鳥が見られます。

例えば、春から夏にかけては、カエルの卵塊やオタマジャクシからカエルに成長する様子を観察することができるかもしれません。足元に気を付けて、探してみましよう。

石積み



石積みの隙間はトカゲやカナヘビなどのすみかになります。晴れた日にそっと近づいてみると、温まった石の上で日光浴をしている様子が見られるかもしれません。

花木・果樹など



蜜を吸いに訪れる昆虫を観察できます。

また、ミカンの仲間は、アゲハチョウの幼虫の食樹、クチナシは、オオスカシバの幼虫の食樹です。葉の食べ痕や落ちているフンを手がかりに探してみましよう。

■コラム 注意が必要な生きもの

ここでは、身近な環境で注意が必要な生きものとしてよく名前が上がるハチとガの仲間について取り上げます。また、対処法は一般的な方法を紹介しています。環境によって生息する生きものは異なりますので、園などの環境にあわせて、注意が必要な生きものについて検討することをお勧めします。

①ハチの仲間

ハチの仲間は、お腹の先にある針で刺します。特にスズメバチやアシナガバチは強い毒を持っています。刺激しなければ刺しませんが、捕まえたり、巣に振動を与えたりすれば襲ってきます。春～秋、やぶ、木の根元、倉庫の軒下など、巣がありそうな場所を下見しましょう。

＜刺された時の対処＞

1. 巣に近い場合はすぐその場から離れる
2. 流水で傷口の絞り洗い
3. 抗ヒスタミン軟膏の塗布
4. 冷却後、様子を見て必要なら病院へ

※軟膏塗布前に、子どものアレルギー等を事前に把握しておきましょう。



②ガの仲間

ごくわずかな種類のガや、その幼虫は、体を覆う毛に毒があり、その毛が皮膚に触れたり、目に入ったりすると炎症を起こします。全ての季節において、遊ぶ前に、ヤブや木の幹、枝葉をチェックしましょう。取り除く場合は、毛が舞い散らないよう慎重に行いましょう。

＜刺された時の対処＞

1. ガムテープ等を使い傷口付近の毛を取り除く
2. 流水で洗って患部を清潔にする
3. 抗ヒスタミン軟膏などを塗布
4. 症状がひどい場合は病院へ

※軟膏塗布前に、子どものアレルギー等を事前に把握しておきましょう。



●リスクを避けるために

- ・野外では基本的に長袖長ズボン帽子。
- ・遊び場を必ず下見する。
- ・公園などで注意が必要な生きものや、その巣を見つけたら近寄らず、公園管理者や行政などに連絡する。
- ・注意が必要な生きものは環境ごとに異なります。日頃から情報収集や応急処置用具の準備を怠らず、安全に自然の中で遊べるよう心がけましょう。

●参考文献

- ・図解 身近にあふれる「危険な生物」が3時間でわかる本 西海太介著 朝日香出版社
- ・危険生物ファーストエイドハンドブック 陸編 NPO 法人武蔵野自然塾 編 文一総合出版

4) 自然あそびの事例

本業務におけるフィールドワーク研修及び公開研修において、市内の公園や緑地で実施したものを中心に、身近な場所のできる自然あそびをご紹介します。

自然の色さがし

一年中

用意するもの
色紙



1. 色紙を1人1枚わたす。
2. 自然の中で、同じ色の自然物を探す。
3. 見つけたものを、色紙の上にのせて一ヶ所に集める。
※どんな色の何を見つけたか、みんなで話してみましょう。

ポイント

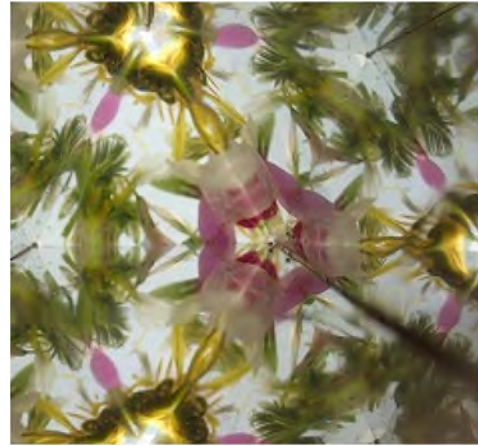
- ・対象年齢に合わせて、色の選択肢の幅を広げたり、色の名前を調べたりするなど、発展させることもできます。
- ・季節や場所を変えて、実施することで「季節の変化」や「環境によるちがい」などに気づきます。
- ・洗濯バサミやクリップを使って、見つけたものを色紙にくっつけることもできます。見つけた場所をみんなで歩いて見に行くときに運びやすいほか、壁につるして飾ることができます。
- ・草花を摘んで行う場合は、摘んでいい場所か確認しましょう。

自然の万華鏡

一年中

用意するもの

万華鏡キット（100円ショップなどで購入できます）、セロハンテープ



1. 万華鏡を組み立てる。
2. 葉や木の実、花びらなどの自然物を入れる。
3. 万華鏡を覗き、回転させて楽しむ。

※友だちの作品と見比べたり、どんな工夫をしたのか、みんなで話したりしてみましょう。

ポイント

- 万華鏡を通して太陽を見るのは止めましょう。
- 万華鏡を回転させても、動きが無い場合は、草花を少し減らしてみるといいでしょう。
- テントウムシやダンゴムシなど小さな生きものを入れる子もいます。回転させなくても、動き出し、見える模様が変わります。生きものがよわってしまう前に、かえしてあげましょう。
- 草花を摘んで行う場合は、摘んでいい場所か確認しましょう。
- 研修時の感想：「小さな万華鏡の中に、自然に落ちている葉っぱを入れたりする中で、新しく発見できることがたくさんありました。」

同じ葉っぱさがし

一年中

用意するもの
ハンカチ



準備 1. ハンカチの下に、葉を隠しておく。

実施 1. ハンカチをめくり、10 秒ほど葉を見る。

葉は、もう一度ハンカチで隠す。

実施 2. 同じ種類の葉だと思えるものを探す。

実施 3. ハンカチの下の葉と見比べて、答え合わせをする。

※見る時間や、一度に探す葉の数を変えることで、難易度を変えることができます。

ポイント

- 比べる時は見るだけでなく、手触りや匂いなども確かめてみましょう。
- 見つけてきた葉が違う種類の葉であっても、似ているところや、違うところなどを、話し合うことで、子ども達の気づきにつながります。
- 同じ種類の葉、同じ草木に芽生えた葉でも、大きさや形が少しずつちがいます。ヒイラギのように、1 本の木に、形がまるで違う葉をつけることもあります。最後にみんなで木全体を観察してみるのもいいでしょう。
- 葉を摘む場合は、摘んでいい場所か確認しましょう。
- 研修時の感想：「『視覚』でわかるので外国籍の子も一緒に楽しめる。」
「『見る』『記憶する』『探す』『考える』『観察する』『共感する』など色々な活動が含まれていると感じました。」
「少しの違いを見つけたり、何がどう違うのかと気づいたり…葉や枝を集める子どもの気持ちが少しわかりました。」

自然の顔さがし

一年中

用意するもの

丸いシール（白色大、黒色小など）



準備 1. 白いシールの上に黒いシールを貼って目玉シールをつくる。

実施 1. 木の形や樹皮などをじっくり観察する。

実施 2. 顔になりそうな場所に目玉シールを貼る。

※黒いシールは油性マジックで描いて代用もできます。

ポイント

- 黒色を貼る位置を工夫すると、横や上を見るなど顔の表情に動きが出ます。
- 樹皮や葉の中には、シールを貼りやすいところと、貼りづらいところがあります。「何が違うのかな?」「その違いにはどんな意味があるのかな?」子どもたちと考えてみましょう
- 目玉シールを貼る前と後で、木の見え方に変化があるかもしれません。それまで気にとめなかった小さな特徴にも気がつくことでしょう。子どもたちと話しながら、他の自然物も観察していきましょう。

自然の宝箱づくり

一年中

用意するもの
いろいろな容器



1. 自然の中で各自が気に入った「たからもの」を探す。
 2. 「たからもの」を容器にいれる。
- ※容器はどんなものでも構いません。容器によって、「こう置きたい。」
「ぜんぶ埋めたい。」「これとこれは似ているから、隣に置きたい。」
など、子どもたちの探し方や作り方が変わってきます。

ポイント

- ・草花を摘んで行く場合は、摘んでいい場所か確認しましょう。
- ・拾った自然物を持ち帰ることができる場所で行った場合は、教室の隅などに、しばらく展示してみましょう。実からタネがこぼれてくるなど、野外では気づきづらい変化に気づくことができます。野外では聞けなかった感想や発見を話してくれる子もいます。
- ・観察し終わった後は、子どもたちと相談して、元の場所にかえしにいきましょう。また、新たな発見があるかもしれません。

葉っぱのステンドグラス

一年中

用意するもの

透明なビニール傘、クリアファイルなど



1. 葉や花びらなどをビニール傘やクリアファイルの上に乘せる。
2. 傘の中や、ファイルの下から、葉と周りの景色を見上げてみる。
 ※貼りやすい葉と貼りにくい葉があります。大きさや形だけでなく、
 光の透け方も違います。それぞれの違いを感じてみましょう。
 ※工夫したことや気づいたことを、みんなで話してみましょう。

ポイント

- 傘の柄が子ども達に当たらないように気をつけましょう。年齢や実施場所などの条件に応じて、クリアファイルを活用しましょう。
- 葉は水に濡れている方が、貼りやすくなります。晴れの日には、葉や傘、ファイル等を水に濡らしてから遊びます。
- レインコートなどの雨具に、落ち葉や草花を貼って、楽しむ事もできます。しっかり貼り付けたいときはテープ類を活用するのもよいでしょう。
- 草花を摘んで行う場合は、摘んでいい場所か確認しましょう。
- 研修時の感想：「雨の日には傘に葉などをつけて中から見るとすごくキレイだということがわかりました。」「雨の日だと外で遊べない印象だったが、今回の研修を通して雨の日だからこそその遊びを知ることができました。」

葉っぱのアルバム

一年中

用意するもの

アルバム台紙、必要に応じて、目にするシール（丸いシールとペン、パンチ穴補強シール）、はさみ、型抜きパンチなど



1. 葉などの自然物を拾う。
2. アルバムの台紙に思い思いに配置する。
 ※自然物だけでその造形から想像力を広げます（写真左）
 ※目をつけたり、型抜きやハサミで形を変えたりすることもできます。
 （写真右）形を変える過程で、葉一枚一枚の感触の違いが楽しめます。
 同じ形で並べると色の違いが際立ちます。

※紙とのりやセロハンテープを使う場合とちがって、やり直しができるのが特徴です。

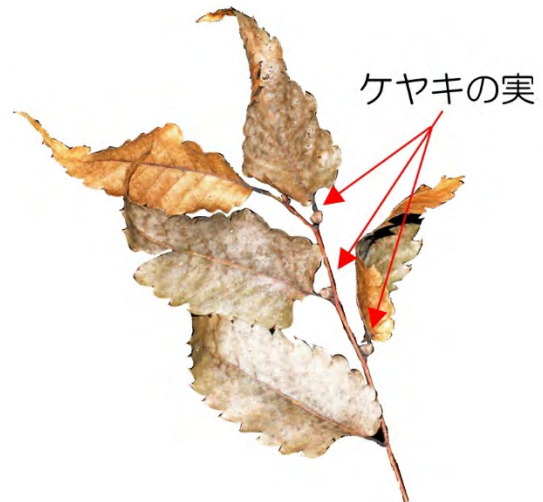
ポイント

- ・同じ木に芽吹いた葉でも、よくみると一枚一枚ちがいます。子どもたちが制作の過程で気づくことを大切に実施しましょう。
- ・制作の途中でもう一度、自然物を拾いに出かけるのもいいでしょう。「この部分に使う〇〇の葉っぱを見つけたい」など、一度目と違う視点で探すことで新たな気づきが生まれます。
- ・自然物は必要なだけ拾いましょう。余ったら自然にかえしましょう。
- ・草花を摘んで行う場合は、摘んでいい場所か確認しましょう。
- ・研修時の感想：「自然の中で夢中でさがすのは気持ちよく、心が落ち着く。」
 「このような『拾う・集める』以外の遊びをもっと広げていきたい。」

落ち葉のシャワー

秋～冬

用意するもの
特になし



1. 落ち葉を両手で拾い、空に向かって放り上げる。
2. 落ち葉が舞い散る様子を体いっぱい楽しむ。

※ケヤキの落ち葉のあるところで行うと、舞い方の違う落ち葉があることに、遊びながら気がつきます。枝ごとくるくる舞うその落ち葉は、葉の付け根に小さな実がついています。(写真右) このように、落ち葉はいろいろな葉の種類や状態によっても、舞い方が違ってきます。よく観察したり、いろんな場所で遊んでみましょう。

※落葉を一度にたくさん降らせたいときは、シフォン布などの上に落ち葉を集め、四隅をみんなで持ち上げて、「ぶわっ」と降らせることもできます。ビニール袋などを利用して、落ち葉のクッションやお布団を作っても楽しめます。たくさんの落ち葉で行うときは、服の中に葉が入らないよう、レインコートなどを着用し、フードをかぶるとよいでしょう。

ポイント

- ・落ち葉の感触やにおい、あたたかさなども感じながら遊びましょう。
- ・「落ち葉の下生きもの探し (P24)」につなげることもできます。
- ・落ち葉の中に危険なものが混じっていないか、予め確認しておきます。子ども同士の間隔にも注意を払いましょう。
- ・研修時の感想：「子ども達がいきいき楽しそうで、『これはどうなってるんやろ。』など、興味を持って、学びへとつながっていた。」「子ども達の言葉や発見を、受け止め、広げていくような対話が大切だと感じた。」

みんなの木

一年中

用意するもの

プラカップ（ふた付きの透明なカップ）など



1. 園庭や公園などで、一人1本、または、グループで1本、木を選ぶ。
2. その木の葉や幹、枝の付き方などをじっくり観察する。
3. 木を利用する生きものを見つけたら、プラカップなどに入れて観察する。
4. 木や生きものの様子など、気づいたことをみんなで話す。
5. 一年を通じて繰り返し観察する。

ポイント

- 子どもの目線や手が届く範囲に枝葉がある木をなるべく選びましょう。
- 選んだ木の絵を描き、付箋などで見つけた生きものや、気づいたことなどを貼っていきましょう。子ども達の興味が持続します。木の変化、利用する虫や鳥の変化などに気づき、季節の移り変わりや命のつながりを感じます。
- 「ウルシ科の植物でないか」、「毛虫がついていないか」、「ハチの巣はないか」など、注意が必要な生きものについて事前に確認しておきましょう。
- 生きものに直接さわれない場合は、絵筆などを使って、生きものを木からプラカップなどに落として観察することもできます。また、無理に捕まえず、みんなで見つけた生きものを観察し、お話するだけでもよいでしょう。
- 観察した後は、生きものを元のいた場所にもどしましょう。
- 研修時の感想：「園でやることで、1年間の自然の変化に目を向けていきたい。」

落ち葉の下の生きもののさがし

一年中

用意するもの

シャベル、紙皿、プラカップ（ふた付きの透明なカップ）など



1. 落ち葉をめくり、下にいる生きものを観察する。
2. 土を手やシャベルですくい、紙皿の上に拡げる。小さな生きものがないか観察する。
3. 見つけた生きものはプラカップなどに入れてじっくり観察する。
4. 観察した後は、生きものを元のいた場所にかえす。
5. 観察した生きもののことを考えて、めくった落ち葉なども、最後に必ず元通りにする。

ポイント

- ・事前にムカデなど、注意が必要な生きものについて、子ども達に伝えておきましょう。
- ・落ち葉は、少しずつそっとめくります。
- ・下の方の落ち葉は、分解されて、土になっていきます。その様子も感じてみましょう。
- ・卵や糞などが見つかるかもしれません。どの生きものの卵や糞なのか、子ども達と想像してみたり、図鑑などで調べたりしてみましょう。

五感を使った遊びを促す 身近な七つ道具

一年中

くんくんボトル



用意するもの

ドレッシングなどの容器

1. 興味を持った自然物を容器に入れる。
2. ケースを握り、出てくるにおいを楽しむ。

香り袋づくり



用意するもの

お茶パックなどの袋

1. お気に入りのにおいがする自然物を見つける。
2. 袋に入れて完成。

ポイント

- ハーブと言われる植物以外にもそれぞれにおいがあります。いろいろ体験して、比べてみましょう。においの感じ方も人それぞれです。子どもたちに生まれる表情や表現を大切に、対話を広げていきましょう。
- 「くんくんボトル」は先生と一緒に行えば、乳児も楽しめます。お迎えの時に、おうちの方も、今日のお外遊びの様子を五感で感じられます。
- 草花を摘んで行う場合は、摘んでいい場所か確認しましょう。
- ボトルの中の様子を確認しながら、適当なところで中の葉を元の場所にかえしましょう。
- 研修時の感想：「五感の感じ方が人それぞれ違うことが分かった。」「においについて保育したことがないので、どんな反応をするか見てみたい。」

においや手ざわりで仲間さがし

用意するもの

旅行用シャンプーボトル、封筒などの入れもの



準備 1. 人数分の入れものと、数種類の自然物を全部で人数分用意する。

例) 10 人分の場合：入れもの 10 個

ヨモギ 4 枚、ドクダミ 3 枚、ミツバ 3 枚

準備 2. 一つの入れものに一枚ずつ自然物を入れる。

実施 1. 一人一つ入れものを取り、目をつぶって、中のおい（手ざわり）を確かめる。

実施 2. 他の子のもったにおい（手ざわり）をかぎっこ（さわりっこ）しながら、自分とおなじ種類の自然物をもった仲間をさがす。

ポイント

- あっていたかどうかより、あそびの過程で生まれる表情や表現、子どもたちが気づいたこと、工夫したことを大切にしましょう。
- 対象年齢に合わせて、それぞれのにおいや手ざわりが、自然の中でどんな効果を持っているのかを、考えたり、調べたりしてみましょう。
- 草花を摘んで行う場合は、摘んでいい場所か確認しましょう。
- 研修時の感想：「七つ道具はぜひやってみたいです。五感をフルに使えたらと思います。」「同じような葉の色や形であっても、においや手ざわりが違うということが、すごくおもしろいなと思いました。」「においや手ざわりのあてっこを通して、人とも関わりました。それぞれの個性も感じることができました。」

道具を使った生きもののさがし

春～秋

プラカップで生きもののさがし

用意するもの

プラカップ（ふた付きの透明なカップ）など



1. チョウなどの場合：

写真のように、右手と左手でふたとカップをそれぞれもち、挟むようにパカッとふたを閉じる。

2. バッタなどの場合：

地面とカップの間に、バッタが入るように、バッタの上からそっとカップをかぶせる。

地面から持ち上げて観察したい場合は、カップと地面の間にふたを滑り込ませる。

ポイント

- 生きものたちは食べものをさがしたり、天敵から身を隠したりと、目的を持って行動しています。自分が野生動物だったらどこなら隠れやすいかなど、生きものの立場に立って想像してみると、見つけやすくなります。
- 生きものをさわれないけれど興味はあるという子も、道具を使うことで観察しやすくなります。
- 観察した後は、生きものを元のいた場所にかえしましょう。
- 研修時の感想：「自分自身、虫は苦手だったが、もっと知っていけたらなと思いました。もしかすると触れるのかも…。」

ビーティング



用意するもの
棒や布など

1. 木の枝や草などを、棒で軽く叩き、ゆする。
2. 下に落ちた小さな生きものを布などで受け取って観察する。

スウィーピング



用意するもの
虫網（なるべく目の細かいもの）

1. 虫網を木や草の近くで、払うように何度も左右に振る。
2. 虫網に入った生きものを観察する。

ポイント

- ・草木を傷めないよう、虫網を振るときの草木との距離や、棒でたたく強さに注意して行います。
- ・木の種類や草丈などによって、生きものがよく見つかる場合と、そうでない場合があります。また、見つかる生きものの種類も変わってきます。いろいろな草木を観察し、どうして違うのかを考えてみましょう。
- ・観察した後は、生きものを元のいた場所にかえしましょう。
- ・研修時の感想：「同じバッタと思っていたものがキリギリスとバッタで違っていて驚きました。」「生きものにふれる中で気にとめていなかった事が多くあり、その点が子どもの成長に大きな影響を与えるように感じました。」

■コラム 自然あそびからはじまること

このあそび集では、いくつかの自然あそびを紹介しています。でも、それを「上手」に子どもたちに実施すること自体を目的にはしていません。

～自然をきっかけに、子どもたちがどんなあそびを始めるかを楽しもう～

2歳児の子どもたちとお散歩で見つけたクモの巣を観察していたときのことです。壊れかけのその巣には、クモがもういなかったのですが、思う存分観察したり、さわったり…、水滴や葉っぱをくっつけてみたりしてあそびました。すると、一人の女の子が、なんとも上手にクモの糸を手にとると…、「たたっ」と走り始めました。

その瞬間、クモの糸はタコ糸に、葉っぱは凧に、早変わり！凧あげの始まりです。その嬉しそうな様子ったら、喜びが全身にあふれていました。

自然の中だけに限らず、子どもたちが自分であそびを生み出すその瞬間に居合わせることが、私たちにとって大きな喜びです。

自然あそびをきっかけに、自然とふれあうことで、子どもたちは自らあそび、興味あるものを見つけていくことでしょう。



バッタさがしの後に始まったジャンプ大会。みんないい動き！子どもたちは、声、動き、その生きものの一番の特徴をとらえて表現する。



公園で見つけたモグラ塚（モグラがトンネルを掘るときに地上に押し出した土の山）。落ちていたコブシの実であっという間にバースデーケーキに。この場所で柔らかい土に触れられるのはモグラ塚だけ。「ほんとだ、これ、すっごく楽しいね。」

5) 自然あそびのための空間づくり（園庭の活用等）

自然は想像力の源泉。その中で行われる自然体験や自然あそびは、他者への理解と想像力を育みます。他者とは、人、生きもの、自然、そして文化… 子どもたちが出逢うすべてのもの。それらへの理解と想像力は「思いやりの心」につながると考えられます。特に園庭は、子どもたちにとって最も身近であり、年間を通じてふれあえる自然の一つです。

「“五感”と自然」

「生きものを呼ぶ工夫」…の2つの視点から、園庭等で展開可能な空間づくりの提案

（1）生きものと子どものための 「草地」と「低木」の迷路

エノコログサやシロツメクサなど、維持管理の中で刈られてしまうことの多い植物も、生きものにとっては大切な食べもの、子どもたちにとっては大切な遊び道具です。また、低木の茂みは生きものの隠れ場所になるだけでなく、子どもたちにも人気の場所。いつの間にか子どもたちが迷路にして遊んでいる場所もみられます。

草刈りの仕方、低木の剪定の仕方など、維持管理の方法を工夫することで生きもののために、子どもたちのためにできることがあります。



草地での生きもの
とのふれあい



低木の迷路 ツツジの例

（2）吸蜜植物・食草・食樹の 「花壇」と香りの「小径」

チョウは視覚や嗅覚を利用して食草・食樹を見つけ、最終的には前脚の先で触れて、卵を産む葉を見分けます。チョウが利用する植物で花壇をつくってみましょう。また、吸蜜植物や食草・食樹には、様々な香りや手ざわりのするものがあります。子どもたちが、見るだけでなく、五感を使って楽しめる花壇となります。



キンカンと
アゲハの幼虫



いろんなにおいがするんだね！

(3) 実のなる木と よいしょの「小山」

子どもたちは、駆けあがったり、おりたりできる小山が大好きです。頂上から周りを見ると…木々の葉っぱに手が届きそう。「鳥さんはこんな景色を見ているのかな？」小山の周りに、野鳥が食べる実のなる木等を植えると、子どもたちが自分の目線で、野鳥を観察することができるでしょう。バードウォッチングというと「静かに、じっとして」というイメージがありますが、海外には子どもが無理なく観察できるスペースを設けている施設があります。



小山と実のなる木



やまだ～！よいしょ！よいしょ！

(4) 生きもののための 小さな「水辺」

生きものにとって、都会の水辺は文字通りオアシスです。例えば小川や小さな池でも、幅や深さ、石、土、水草等多様な環境にすることで、多様な生きものが利用することができます。また、そうすることで様々な年齢の子どもたちも、自分にあった場所を選んであそぶことができます。



水浴びする
シジュウカラ



石の下を覗いてみると…



クロスジギンヤンマのヤゴ

(5) 環境づくりのイメージ・マップ

身近な自然を活かした環境づくりの方法は様々です。イメージしやすいように、例をマップで紹介します。

草刈りの頻度を低くし、草むら環境を創出

- 中心部：
中茎草地（0.3～0.6m）
草刈は年2～3回程度。
メヒシバ、エノコログサなど
想定される昆虫類：バッタの仲間
- 周辺部：
低茎草地（数cm～0.3m）
草刈は年3回以上。
オオバコ、シロツメクサなど
想定される昆虫類：コオロギの仲間

「におい」や「てざわり」を中心に五感で楽しめる花壇

- 以下の植栽を検討する。
におい：サンショウ、キンカン、ハーブ類等
てざわり：トクサ、ラムズイヤー等
- においを楽しめる植物は、チョウ等の幼虫の食草になっているものも多く、生きものの観察も展開できる。



ちょうちよの花壇

- 吸蜜植物を中心としたバタフライガーデンを設置する。
春：スマレ類、アブラナ 夏：ユリ類、アザミ類 秋：オミナエシ、ノコンギク等

でこぼこ小径

- 花壇の周りや内部に、丸太、飛び石、ウッドチップ等を配置した小径を設置する。
（幅50cm程度）でこぼこが足の感覚を刺激するほか、でこぼこ道を歩く際の適度な集中と開放の繰り返し心地よい達成感を生む。

低木でかくれんぼ

- 子どもが一人通れるくらいの隙間が生まれる間隔（30cm前後）で植栽の検討を行う。ツツジ類、ユキヤナギ等が望ましい。

**SAKAI 乳幼児
『わくわく自然あそび集』
～子どもも大人も Let's チャレンジ！～**

令和2年3月10日 発行

**発行：堺市 子ども青少年局
子育て支援部 幼保運営課
〒590-0078
堺市堺区南瓦町 3 番 1 号
TEL:072-228-7231
FAX:072-222-6997**

**編集：株式会社 生態計画研究所
〒189-0013
東京都東村山市栄町 2-28-5
小河原ビル 3F
TEL：042-390-0098
FAX：042-390-1237**

●無断転載を禁ず

